

# 自殺目的でメトホルミンの大量内服後、 乳酸アシドーシスを伴わない 急性腎不全を発症した2型糖尿病の1例

井上 正晴, 井口 楓, 祢津 光廣

(地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立中央病院糖尿病内分泌内科)

## Key words▶

メトホルミン  
自殺企図  
急性腎不全

## 要 旨

症例は38歳男性、2型糖尿病でグリベンクラミド、メトホルミンにて治療していたが、20XX年10月6日自殺目的でメトホルミンのみ12,000mgを内服した。悪心・嘔吐で排尿もなく、10月8日腎不全が疑われ当院救命救急センターに救急搬送された。

急性腎障害が認められたため、血液透析療法施行。しかし、乳酸の上昇、代謝性アシドーシスは認められず、乳酸アシドーシスは発症しなかった。透析後腎機能改善とともに全身状態改善し、食事摂取可能となり経口血糖降下薬を再開して退院となった。

1日最大投与量の5.3倍のメトホルミン内服で急性腎不全をきたしたが、乳酸アシドーシスは起こさなかった症例を経験した。貴重な症例と考え報告する。

## ○ 緒 言 ○

大血管障害抑制のエビデンスがある<sup>1)</sup>メトホルミンは、欧米のみならず多くの国で2型糖尿病薬物治療の第一選択薬になっている。わが国においても2010年4月より2,250mg/日の投与が可能となった。さらにメトホルミンの新たな作用機序が明らかとなり、投与が増加している。投与増加に伴い乳酸アシドーシスの報告も増えているが、最近メトホルミンの薬物トランスポーターが薬効や副作用に影響を及ぼすという報告もある。

今回、自殺目的でメトホルミン12,000mgの内服で乳酸アシドーシスを伴わない急性腎不全を発症した1例

を経験したので報告する。

## ○ 症 例 ○

患者：38歳，男性。

主訴：嘔心，嘔吐。

既往歴：精神科受診歴なし。

家族歴：両親が糖尿病。

現病歴：10年前に2型糖尿病と診断され、かかりつけ医に通院。グリベンクラミド5.0mg，メトホルミン1,500mgにて治療されていたが、HbA1c 8.5%とコントロールは不良であった。合併症はなく、腎症も尿中アルブミン8.3mg/gCrと認められなかった。

20XX年10月6日、自殺目的でメトホルミンのみ48錠(12g)内服したところ、10月7日より悪心・嘔吐あり、

近医で点滴を受けたが改善せず。10月8日悪心は改善せず尿量も減少したため、かかりつけ医を受診し、血液検査から腎不全が疑われ、当院救命救急センターに救急搬送された。

現症：身長161cm，体重63.4kg，BMI (body mass index) 24.4kg/m<sup>2</sup>，意識清明

体温 37.0℃，血圧 168/111mmHg，脈拍数 113bpm (整)，呼吸回数22回/分  
酸素飽和度：97% (room air) 自尿なし。その他特記すべき身体所見なし。

入院時検査所見 (表)：内服48時間後の血液・生化学検査では炎症反応の上昇，血小板減少，T-Bilの上昇，BUN 66.6mg/dL，Cre 7.11mg/dLと高度腎機能障害，さらに高血糖を認めた。